



日
本

の源流再発見

File 13

群馬県桐生市

働き者の女性たちが支えた町



群馬県の東部に位置する桐生市は、古くから養蚕が盛んで、京都の西陣と並ぶ絹織物の産地として栄えました。その繊維産業を支えてきたのが働き者の女性たち。中之条町、片品村、甘楽町とともに認定された日本遺産「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」は、そんな女性たちをたたえるストーリーになっています。

桐生織物記念館

古き良き建物が残る、どこか懐かしい町並み

桐生は、高級絹織物産地として知られ、江戸時代から「西の西陣、東の桐生」と言われてきました。甘楽町にあった製糸会社「甘楽社小幡組」の由来碑には、「^{かんら}邑ニ養蚕セザルノ家ナク製糸セザルノ婦ナシ(村で養蚕をしていない家はなく、製糸をしていない女はいない)」と刻字されており、古くから多くの女性が織手として繊維産業に携わっていたことがわかります。このような働き者の妻たちを、夫たちは「おれのかかあは天下—」と呼び、これが「かかあ天下」として上州名物になりました。

明治に入り海外との貿易が始まると、織物は日本の主力輸出品となり、工業化が進みます。織物が産業として成長していくにつれ、一部で桐生織の名にふさわしくない粗悪な製品が現れました。そこで、製品の規格化と技術力の向上によりブランドを維持するため、桐生織物同業組合(現桐生織物協同組合)が結成されます。例えば、高級な和服生地などに使われるお召織では、たて糸の密度が1cm間で100本以上と決まっているなど、桐生織物の品質が保たれています。

その組合事務所の旧館として使わ



織物参考館“紫”

れたのが「桐生織物記念館」です。絹織物の生産工程の解説やさまざまな織物、機械類などを見ることができ、桐生織の帯や着物から、洋服生地や服飾雑貨品などの販売も行っています。1934年に建てられたタイル張りのモダンな建物は、映画やドラマのロケにもよく利用されています。また、明治から昭



▲ 絹襴記念館

重要文化財に指定された縄文時代の耳飾りのレプリカなど桐生市の遺跡出土品や繊維産業関連資料、明治、大正、昭和の家電製品など、ユニークな展示物を見学できます



▲ ぐんま昆虫の森

里山の環境の中で昆虫とふれあえる体験型教育施設。亜熱帯の環境を再現した昆虫ふれあい温室では、多くの蝶（ちょう）を観察できます



▲ 織物参考館“紫”

ノギリ屋根の工場跡に、糸撚機（しねんき）や織機（しょつき）など織物産業で使われてきた多くの機械が展示されています。はたおりの実演見学や体験も可能です



▲ 桐生明治館

明治初期の洋館としては珍しく喫茶室があり、美しい建物の中でケーキや飲み物を楽しむことができます

和にかけての織物に関する資料を中心に展示している体験型博物館「織物参考館“紫”」では、藍染めや手織りの体験が可能。織機などの機械類も数多く展示されています。

全国でもわずか6か所しかないといわれる模範工場の一つである「絹襴記念館」は、1917年建造。関東大震災以前の西洋風石造建造物は珍しく、群馬県では最古級の建物として市の重要文化財に指定されています。東日本大震災で壁に亀裂が入ったこともあり、2012年に大規模な改修工事を実施。外観は写真などが資料として残っ

ていた1934年当時の美しい姿を再現しています。

1878年に群馬県衛生所として建てられた「桐生明治館」は、長崎の洋館の写真を見ながら職人が造ったという擬洋風建築。写真だけを手がかりによくぞここまでと思うほど、凝った造作が印象に残る美しい建物です。

ココに注目

じゃがいも、玉ねぎ、でんぷんが主原料の「コロリンシュウマイ」は、モチモチした食感と特製ソースがマッチしたB級グルメ。



日立グループ事業所紹介

今回訪れた群馬県には日立オートモティブシステムズ株式会社 群馬事業所があります。パワートレインシステムや車両統合制御システムをはじめ自動車関連機器・システムの開発、製造、販売およびサービスを行っています。

日立オートモティブシステムズ株式会社 群馬事業所 群馬県伊勢崎市粕川町1671番地1
<http://www.hitachi-automotive.co.jp/>